

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い知性、豊かな人間性、健やかな心身をもち、国際人として、将来、世界でさまざまな分野で活躍できる素質を育てる。

- (1) 高い基礎学力と自学自習力をもてるように、学習中心の学校生活を確立するためのあらゆる努力と支援を惜しまない。
- (2) 学校行事・特別教育活動や部活動等とおして逞しい実行力、実践力を養う。
- (3) キャリアガイダンスを充実させて、早期に明確な進路目標をもたせ、その目標へ向けての学習活動によって進路希望の実現へと導く。
- (4) 国際理解教育と科学教育を専門学科として極めると同時に、両者のメリットを融合させ未来の世界をリードできる人材を育てる。

2 中期的目標

1 確かな学力への取り組み

- (1) 授業の質を向上させ、生徒にとって「魅力的な授業」「わかる授業」を実現する。

※ 目標：授業アンケート項目「生徒意識1」「生徒意識2」の肯定的回答の比率を85%以上にする。

- ア 授業改善を目的とした研究授業を定期的実施し、授業の質の向上をめざす。
- イ 授業アンケートを年間に2回実施し、結果に対して分析を行うことで、問題点を明確にして改善に取り組む。
- ウ 生徒の自学自習を支援し、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。自習環境を整備し、自学自習の習慣の確立をめざす。
- エ 専門高校としての特徴を活かした教育課程の編成と、両科の強みを相互に活かす教育活動の展開をめざす。

- (2) 国際理解教育の充実

※ 目標：TOEICスコア、500点以上を20名以上

- ア 国際人としての広い視野と感性を育て、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を行う。
- イ コミュニケーション能力を向上させ、留学や、海外の大学への進学を推奨する中で、世界を視野に入れた人材づくりを行う。
- ウ TOEFL・TOEIC・英語検定などの資格試験に積極的に挑戦し、自ら語学力の向上を図る生徒を育てる。

- (3) 科学教育の充実

※ 目標：科学系コンテストにおいて、年間に3件以上の入賞

- ア スーパーサイエンスハイスクール事業及びその人材育成枠の指定校として、その取り組みを深め、世界で活躍できるグローバルな科学人を育成する。
- イ 五感で体得する理科授業をめざして、多くの実験実習を授業に取り入れ、その効果的な活用を行う教材を開発する。
- ウ 高大連携、大学訪問研修等を実施し、高校と大学の科学教育のスムーズな接続を行うとともに、生徒の学習意欲を高める。

2 進路指導の充実

- (1) 生徒一人ひとりの進路について、自ら目標を立て、可能性を追求し挑戦する態度を養い、実現できる生徒を育成する。

※ 目標：国公立大学進学者30名以上

- ア 進路講話の実施等、早期からのキャリア教育を実施し、高い目標を掲げた、望ましい職業観の育成を図る。
- イ 進路情報の的確な提供と、きめ細やかな進路選択の指導を行い、「行ける大学」から「行きたい大学」をめざした生徒の進路実現を支援する。
- ウ 進学補習を計画的に実施し、進路を実現するための学力向上を支援する。

3 開かれた学校作り

- (1) 学校の特色ある教育活動について、幅広く情報発信をすると共に、地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。

※ 目標：学校説明会参加生徒数1500名以上

- ア 様々な情報メディアを活用し、きめ細やかな情報の発信を行う。
- イ 学校説明会等を充実させることで、入学者に対して、本校の教育活動に対する理解を深める。
- ウ 地域の小中学生や住民に対しての科学講座・英語講座を実施し、地域の科学教育、国際教育の中核としての地位の確立をめざす。

4 活気と規律のある学校生活

- (1) 生徒一人一人を大切にするとともに、自主性の向上をめざす。

※ 目標：部活動への入部率85%以上。遅刻総数2000名以下

- ア 個別に支援が必要な生徒への対応について、校内の組織を整備するとともに、きめ細やかな運用を実施する。
- イ 部活動を活性化し、参加者を増加させるとともに、その内容の充実を図る。また、学習と部活動を両立することのできる生徒を育てる。
- ウ 基本的な生活習慣を確立し、規律ある行動を行うことのできる、社会性の豊かな生徒を育成する
- エ 生徒会活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総合的な項目】「泉北高校に進学してよかった」保護者 95% (2%増)、生徒 88% (1%増) で、総合的な評価において、非常に高い結果を得ている。「学校が楽しい」保護者 90% (2%減)、生徒 83% (2%減) と微減。</p> <p>【確かな学力への取り組み】家庭学習が不足しているとの共通認識があり、増強の取組が急務である。授業でのコンピュータ等の活用についても、生徒 52% (2%減)、教職員 64% (5%増) と、さらなる推進が必要。</p> <p>・専門学科の特色について、生徒 90% (1%増)、保護者 95%、教職員 94% と高い理解を示した。特に英語重視の取組に、生徒 71% (9%増)、保護者 93% (9%増) と高評価。</p> <p>【教育相談体制】生徒 55%、保護者 60% (7%増)、教職員 91% (6%増) と改善。</p> <p>【開かれた学校づくり】保護者で「授業を参観する機会を多く設けている」94% (5%増) と増加しており、開かれた学校づくりがさらに進んでいる。</p> <p>【活気と規律のある学校生活】生徒会行事への積極的参加は、生徒 61.4% (3%増)、保護者 94.2% と微増。部活動への積極的参加は、生徒・保護者ともに 70% 台を維持。また、「生徒指導方針に納得」生徒 71.9% (8%増)、保護者 72.4% など、生徒、保護者ともに、指導に対する理解が深化。</p> <p>【その他】『地震や台風への対応』の保護者回答が、78% (14%増) と大きく改善した。一連の周知活動の成果である。</p>	<p>第1回 5月23日(金) 《授業改善について》 ・教科の枠を超えた研究授業、部外の講師を活用するなど先進的な授業研究を行う必要がある。</p> <p>第2回 10月29日(水) 《家庭学習について》 ・高校入試の改革もあり、専門学科の特色を強化するとともに進学実績の向上が求められる。保護者の協力を求め、家庭学習の充実を進めてほしい。</p> <p>第3回 3月7日(土) 《授業アンケートについて》 ・肯定的回答が増えており、一定の成果が見られる。教員の体験談を話すなどして進路意識を向上させれば、2年生での学習意欲の喚起につながるだろう。</p> <p>《施設整備について》 ・第2体育館の雨漏りやトイレなど、老朽化が進んでいる。安全・衛生に関わることなので、改善要望を継続してほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力への取組み	<p>1. 授業改善を目的とした研究授業を定期的実施</p> <p>2. 授業アンケートを年間に2回実施し、改善に取り組む。</p> <p>3. 自習環境を整備し、自学自習の習慣の確立をめざす。</p>	<p>ア 各学期に研究授業週間を設定し、教科ごとに1回以上の研究授業を行い、全教員が授業の見学し合評会への参加をする。</p> <p>イ 参観、公開授業を年3回以上実施する。</p> <p>ウ 授業評価アンケートを年2回実施する。</p> <p>エ 各教科が、アンケートを基に、授業力アップのための具体的対策を検討し実施する。</p> <p>オ 自習室の環境整備を、課題検討委員会が行い、学年が自習室の運営を行う。</p> <p>カ 家庭学習時間の増加をめざす。具体的方策を、各教科が提示し、課題検討委員会が集約する。</p>	<p>ア 研究授業の開催回数と参加教員数。(学期ごとに全教科1回以上、全教員1回以上)</p> <p>イ 公開授業・授業参観の人数合計300名以上。(270名)</p> <p>ウ 生徒による授業アンケートの「生徒意識283%」(80.3%)、「生徒意識180%」(78.8%)以上の達成。</p> <p>カ 「1時間以上」家庭学習する生徒の割合が50%以上。</p> <p>()内はいずれも25年度数値。</p>	<p>ア 研究授業の開催回数は、33回。参加教員数は、のべ約125名。(○)</p> <p>イ 公開授業、授業参観の参加者数は、約200名である。継続して目標達成に向け努力していく。(△)</p> <p>ウ 授業アンケート 生徒意識285.0%(○) 生徒意識186.7%(○) 引き続き努力を継続していく。</p> <p>オ セミナーC3教室を自習室とし整備した。(○)</p> <p>カ 1時間以上家庭学習する生徒の割合49.7%(△)</p>
(2) 国際理解教育の充実	<p>1. 国際人としての広い視野と感性を育て、グローバル人材の育成を行う。</p> <p>2. 留学や、海外の大学への進学を推奨する中で、世界を視野に入れた人材づくりを行う。</p> <p>3. TOEFL・TOEIC・英語検定などの資格試験に積極的に挑戦する。</p>	<p>ア 外国語指導助手を効果的に活用し、英語によるプレゼンテーション能力・会話力を向上させる。</p> <p>イ 海外のユネスコスクール校等と、インターネットを通じた交流を行い、実践的な語学力を養う。</p> <p>ウ 総合科学科において、「科学英語基礎」を開講し、課題研究等の発表を英語で行う力を養う。</p> <p>エ 総合科学科のグローバルコース選択生は、研究成果を英語で発表できるようめざす。</p> <p>オ 学校設定科目「GET」を放課後の選択科目として開講する。また、土曜日に特設クラスを開講し、TOEFL・TOEICのスコアの向上を図る。</p> <p>・1・2年生全員にTOEIC Bridgeを受験、3年希望者にTOEICを受験させる。</p> <p>カ 英検受験を奨励し、2級の合格者を増加させる。</p>	<p>ア スピーチ・レシテーションコンテストの実施。</p> <p>イ インターネットを通じた国際交流を年4回以上。</p> <p>ウ 課題研究の発表において、英語を使用する。</p> <p>エ 課題研究の発表要旨を英文で作成し、英語でのポスター発表を行う。</p> <p>オ TOEIC Bridgeの平均点、2年国際文化科140点(24年度は135.1点)。 ・平均点、TOEIC IP450点 TOEFL ITP430点。</p> <p>カ 英検の受験者150名と2級合格者数50名。</p>	<p>ア 10月30日にレシテーション、11月27日にスピーチコンテストを開催(○)</p> <p>イ ルワンダ国ガヒニ高校やネパールと計4回交流(○)</p> <p>ウ 3チームが英語で課題研究発表を行った(○)</p> <p>エ 発表趣旨を英文で作成し、英語でのポスター発表も課題研究発表会で実施した(○)</p> <p>オ TOEIC Bridgeの平均点は2年国際文化科130点(△) TOEIC IP及びTOEFL ITPはTOEFL iBT模擬テストに読み替えて3月に実施した。平均38点。(△)</p> <p>カ 英検3回実施し合計207名受験(◎)。準1級合格者2名、2級合格者45名(△)</p>
(3) 科学教育の充実	<p>1. SSH事業の指定校として、人材の育成を行う。</p> <p>2. 多くの実験実習を授業に取り入れ、教材を開発する。</p> <p>3. 高大連携、大学訪問研修等を実施し、スムーズな接続を行う。</p>	<p>ア 課題研究を深めて、科学系コンテストの応募や学会での発表件数を増加させるとともに、コンテストでの入賞をめざす。</p> <p>イ 理数理科での実験実習の実施率を維持するとともに、より効果的な新しい実験・実習に取り組む。</p> <p>ウ 高大連携講座や大学訪問研修を発展的に継続し、講座の参加人数、訪問する研究室数も昨年並みか、それ以上とする。</p> <p>エ 課題研究の成果を生かして、国公立大学のAO入試や公募推薦での合格をめざす。</p>	<p>ア コンテストや学会発表を5テーマ以上、2件以上の入賞をめざす。</p> <p>イ 実験の実施率は30~50%、新しい実験を各科目2テーマ。</p> <p>ウ 高大連携講座の参加者を延べ150人以上、大学訪問研修を30研究室以上とする。</p> <p>エ 国公立大学のAO・公募推薦の合格者3名以上とする。</p>	<p>ア 3テーマ参加。入賞は1件(△)</p> <p>イ 実験実施率30~50%は達成できている。新しい実験についても実施済みである。(○)</p> <p>ウ 高大連携講座の参加者は163名(○) 大学訪問研修では29研究室を訪問(△)</p> <p>エ 国公立大学のAO・公募推薦合格者は0名(△)</p>
2 進路指導の充実	<p>1. キャリア教育を実施し、望ましい職業観の育成を図る。</p> <p>2. 進路情報の的確な提供と、進路選択の指導を行う。</p> <p>3. 進学補習を計画的に実施する。</p>	<p>ア 高い目標を持ち、進路実現に向けて挑戦する態度を養う。</p> <p>イ 進路HRで進路選択に関わる情報提供(学部別ガイダンス、予備校の講師による進学講話等)を行う。</p> <p>ウ オープンキャンパスへの積極的な参加の奨励。</p> <p>エ 校内実施の外部模試受験による、学力状況の共有と学習目標設定への活用。</p> <p>オ 長期休業中の希望講習の実施。</p>	<p>ア センター試験出願者140名、国公立大学合格者25名、関関同立100名。</p> <p>イ 進路講話(各学年3回以上)保護者向け講演会(各学年1回以上)の実施。</p> <p>ウ オープンキャンパスへの参加者数。</p> <p>エ 校内模試(1年1回以上、2年2回、3年5回)の実施。</p>	<p>ア センター試験出願者173名(○) 国公立大学24名(△) 関関同立164名(◎)</p> <p>イ 進路講話実施回数 1年→5回 2年→6回 3年→9回(○) 保護者向け講演会は各学年1回実施(○)</p> <p>ウ オープンキャンパスへの参加者数→2年生全員参加(○)</p> <p>エ 1年→1月末に実施 2年→11月と1月に実施 3年→3回実施済み、11月に2回実施(○)</p> <p>オ 長期休業中に希望講座を37講座実施(○)</p>
3 開かれた学校作り	<p>1. 様々な情報メディアを活用し、情報の発信を行う。</p> <p>2. 学校説明会等を充実させる。</p> <p>3. 地域の小中学生や住民に対する科学講座・英語講座を実施する。</p>	<p>ア H Pの更新や、Facebookの発信による情報提供を積極的に実施し、速報性を高める。</p> <p>イ 月刊学校新聞およびメールマガジンを発行し、保護者への学校行事活動の周知を行う。</p> <p>ウ 学校説明会を充実させる。体験授業やクラブ体験、ミニオープンスクールなど、さまざまな方法で学校を紹介し、体験してもらう機会を提供する。</p> <p>エ 中学校および進学塾を訪問し、きめ細やかな広報活動を実施する。</p> <p>オ 小中学生対象の科学教室を定期的・継続的に実施する。また、夏期休暇中に自由研究の指導なども行う。</p> <p>カ 地域住民対象に、自然観察講座や実験講座を開催する。</p>	<p>ア H Pを毎週、Facebookを隔週で更新。</p> <p>イ 新聞を毎月発行、メールマガジンを800名、100回配信。</p> <p>ウ 学校説明会を4回実施。参加人数1400人。外部会場個別応接説明会10回。</p> <p>エ 中学訪問2回、80校実施。進学塾訪問50校。</p> <p>オ 小学生対象の科学教室は5回連続の基礎講座に加えて、2分野で発展講座を開催。</p> <p>カ 地域住民向けの講座を3回以上開催。</p>	<p>ア H Pを毎週、facebookを隔週で更新(○)</p> <p>イ 新聞を毎月発行(○) メールマガジン登録986名(○)60回配信(△)</p> <p>ウ 学校説明会4回実施。参加人数1400名。他に、制服発表会、オープンスクール①・②、ミニオープンスクールを実施。外部個別応接説明会26回実施(○)</p> <p>エ 中学校訪問は年3回で計170校。(○) 進学塾訪問はのべ50校。(○)</p> <p>オ 小学生対象の科学教室は5回連続上級初級の2分野で開催。(○)</p> <p>カ 春休みに実施予定である。(○)</p>
4 活気と規律のある学校生活	<p>1. 校内の組織を整備し、きめ細やかな運用を実施する。</p> <p>2. 部活動の参加者を増やせ、内容の充実を図る。学習と部活動を両立させる。</p> <p>3. 基本的な生活習慣を確立し、社会性の豊かな生徒を育成する</p> <p>4. 学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させる。</p>	<p>ア 特別支援体制を組織化し、個別の支援を必要とする生徒に対する包括的な支援体制を充実させる。</p> <p>イ 相談室機能を充実させ、課題や悩みを抱える生徒を早期に発見、支援できる体制づくりを行う。</p> <p>ウ 教員のカウンセリング能力を向上させる。</p> <p>エ 体験入部の期間の設定や、中学生対象の体験入部など、部活動の活性化に向けた取り組みを実施する。</p> <p>オ 部活動参加者の進路実現に向けて、学習意欲向上に向けた分析と対策を実施する。</p> <p>カ 基本的な生活習慣の確立をめざし、遅刻を減少させ、生活規律を向上させる。</p> <p>キ 学校行事等に対する生徒の自主的な運営を支援し、充実した学校生活を支援する。</p>	<p>ア 支援会議の月例開催。</p> <p>イ 相談係会議の月例開催。</p> <p>ウ 教員対象の研修会の実施。</p> <p>エ 入部率82%。クラブ体験会参加者100名。</p> <p>オ 部活動参加者、自宅学習時間平日50分。休日70分。 ・「部活動と学習の両立」の肯定率を50%以上。</p> <p>カ 遅刻数の減少(5%減) (昨年2398名)</p> <p>キ 「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答70%以上。</p>	<p>ア ほぼ隔週で開催(○)</p> <p>イ 2、3ヶ月毎に開催(△)</p> <p>ウ 実施していない(△)</p> <p>エ 入部率83%(○)、クラブ体験参加者数227名(○) (8月末の体験入部157名参加) (10月のミニオープンスクール70名参加)</p> <p>オ アンケートでの部活動と学習の両立の肯定率43.3%(△)</p> <p>カ 遅刻数2308名(4%減)(△)</p> <p>キ 生徒の生徒会行事参加の肯定的回答69.2%(△)</p>